

知っていますか？

空襲の基本用語

都市を焼き払うため、油やナパームなどの薬剤をつめた砲弾。主に長さ50cm、2.7kgの焼夷弾38発を内蔵した集束弾として投下し、空中でバラバラに分離させて地上に落とした。

しょういだん
焼夷弾



B29

アメリカ軍の大型爆撃機。全長30.2m、全幅43.1mで、9トンもの爆弾を搭載できた。八幡への空襲では主に500ポンド爆弾（通称250キロ爆弾）や焼夷弾が投下された。

こうしゃほう
高射砲



空襲による被害を避けるため、家の床下や庭の隅、空き地、校庭などに掘られた土穴。

ほうくうこう
防空壕

とうかかんせい
灯火管制

上空の敵機から爆撃目標にされないように電灯をおおったり、窓に紙を貼ったりして明かりを外に漏らさないようにすること。

石炭から高温で燃焼するコークスをつくる炉。溶鉱炉よりも爆撃に弱いため、八幡製鉄所をねらった最初の空襲で第一目標にされた。

ろ
コークス炉

敵の戦闘機を攻撃するため、高台などに設置された火砲。飛行高度の高いB29にはなかなか当らなかった。

戦時中の食料事情について聞きました…

はいきゅうせい
配給制

戦時中と戦後しばらくは配給制で、とくに食べ物に苦労した。筑豊の方へ買い出しに行ったり、田舎の親類をたよった。

物資不足のため、米・砂糖・マッチ・衣類などの生活必需品が、切符や通帳で配給された。

米が手に入らず、「だご汁」に大豆粕やトウモロコシ粉を固めたものを入れて食べていた。

じる
だご汁

小麦粉を練り固めた団子を入れた汁。「すいとん」とも言う。

戦時中、荒手町の上の方はイモ畑だった。イモだけじゃなく、当時は「芋蔓」もよく食べた。枝光小学校の校庭の一部も、畑になった。

いもづる
芋蔓

サツマイモのつる。葉柄の部分を食べる。

戦中・戦後は、食料不足のため雑草まで食べた。製鉄所の鋼材置き場（現：山本工作所付近）の草をとることが許可されると、あっという間にキレイになくなった。【1949年頃】

【戦時中に食べられた野草】 ヨモギ、カヤ、マツヨイグサ、アレチノギク、キクイモなど。